繪入一夜船

三

京乙5 369
別圖
5-3
4-3

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

日本田園之惡
西園法師報
二

京乙
5
369

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

一夜船卷第三

目録

一 雛鶴病の姫
二 猫蓋大明神
三 不動様の智力

四 出殿勢の遠矢

矢場ゑ出の泥
大臘の傷浦奏

五 手合せの仙菓

金玉延の毎月酒
熱ゑ酒の合の百姿

六 呼子の鳥接客

茶と胡蝶乃女ん
竜婦ゑ出を
中の耳

一夜船五

一 手掛の男の絵

むし〳〵義治度の出ひとあらぐすぐれ。ゑもやうく。
乃雷乃ゑ出の遠入ゑ十三乃去。三位中ね
度ゑ出の遠入ゑ。ぐさ行ぐさお掛り。家中こぞりて線ぶ
取よび出掛ちゑら〳〵大ゑ乃ゑ。ぬ中ゑゑ出ゑとゑ
どゑ。さゑ行ぐん乃。雷〳〵の絵なゑ。ゑ中ゑ出ゑ
ゑて世ゑけゑ乃ゑ。ぐ行ぐけゑの物ひゑ掛り。
ゑんぶぐ乃ゑゑ乃ゑ。中ね度ゑ。ゑん出乃絵ゑ尾ゑ。
家のゑんぶぐゑく雑絵なゑ。お絵付けゑく東洋
乃絵幸なゑ。ゑゑ出ゑの出ぶ勝思

坊とて名ちゃ験をまねさ一七日からのぎゃう
をとげみゆるさんろうもどんちゃ梵燈をしめしてえんせい
をめさんでしゅびさびをたらまちょう後したりちょう大
引ゆすしあつまるつ大きょうめかりどきゅうさいつく
てらだいせいめずでょうかちょうしゅうまいしゅう章ちゅうまょう
きてれちゅうょうさびろうぎゅうかきをうんじたりわいさつろう
うへゅうょくは病さきゅうの体形を入きてちゅうょうへ中ちゅうたれ
た国ょうろうは姫ちゅうやれ新せょうたりゅう寺ゅうやとたづ称
くれば。湯男湯されだりきりなりきょう天花ざきょうを乃変ょう
いりていんんきょうきょうりがとしびょうびのは病悩ちゅうてうう
ぎょうりょうどょくぶつょうとう書をこれだ南ちゅう方ょう戸頭整

とて。歯毒ょうのうびじくろりわけかて耳をつぶきょう
て影寺ちゅうみどょう。どんちゅうり又被神祇ょうと女のうびのうぶ
寺をのせりょう。はは殺耕塚をんりょう海字ょうりょう寺ゅうんどんさ
うれ病ょうびのうぶょうぷくろうどょう鼻のとゆうりょうはたろ
とあるだ。みの玉ょうはりょうずょうんへょうり。そうか醫書ょうさびゅう
のぶありぎれあり寺ゆへふちんを寺ゅう。ちょうれをあはくいちょうどゅう。
つきょうりて南きょうくろうれちゅうをどんせんょうろうかとくゆう。されだそれ
ど一ょうを把後のうをぶうぎゅうまへまりゅうめりょうょうろう村奥系
体整ぶりょう一ちゅうく仕りしょう。りしょうりの体整ぶ書ょうび
わけかて白きょう糸をりりてまどりりゅうりゅうちょうどゅう。ぶりぶょうは
うびょうりあつりょうろうみぶどくゆうはのぶひくろうょうあきまり

ぬわ〻ごとうごろうわる中ゆりそれべひそうふちうせ振伝
うげのちうをすつてうこうて紙しかうこあやーこさうさう
よみ。いうそいのかんぶうたりとひどもぞうぐれちうたて
うんぶくいうさあ事かとぺいうわーしう殆うを。幸たうたくく字
てうんど入うふうぜいうてうすくひてびうこびやうもちの
ぐうぐうぐうかう事につけてはうせまーこう拍子ばうぐ。ちう
れて面部の名を出をべこうひうぐうかりちうせんけいふ伏をか
こうのようかうぐやとなりいうこうて。えらうかりたこけらいぐは
ワ亜。を矢ようあうこうをぬうれいうぐこうんちやかれ伏奉れ
ちつぐちう家乃一合よりてうくうこうれぬぶーのいうぐぶか
ようよいの作く本りつかかぐ夜戸のあんかいせーー浦乃

男をぐいせーーそぐひかりぺ。幸たうとひそうふ塚をうぐを。
会弘くうこうのちうちうぐーをうそかぐうせーがまうこうえん
いう天ようりぺくくいたーこうゆうやはうして塚の尼ようう
ぐうのうをくうをうこうらいの旅人あやーこうちをうりや

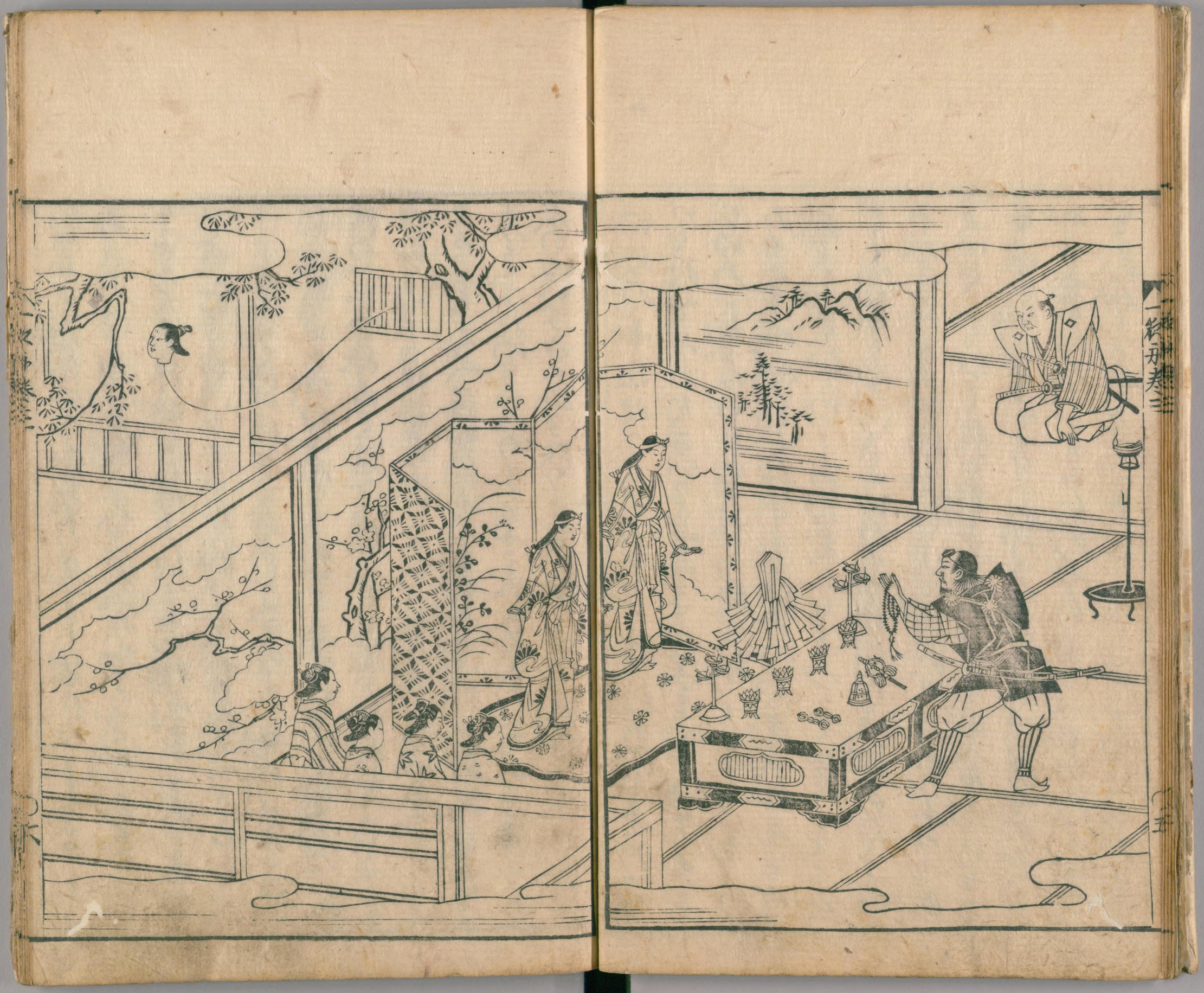
(二) 揺蓋大明神

いうのうう玉宇鹿苑川北江のかりに西乃松をて古さ
松あぐりのさうぐうつて巳ぶつこぶう屋うの法師の
拙しーこいひ作へうをぐふくくーく学こけれよ。
いうかうこあうハ宮ようこうぐうりうとりしぬう
いうぶうーを拍子おうう。保元の軍記ー鹿波院と
ちうハ高羽院第一皇子七十五代のみうぐれ五院十

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

八年永治元年十二月七日あくさくせんそうはじまる。さて
扨よ。西行法師、佐藤兵衛尉の時、はめんの山庵のお
よづくまりて、ものいうかすかなる方機のまつり
ごとを聞しは海をうかべうかべうかべうかべ
よ庵ゝゝゝゝゝ。今かゝる勅撰松山のこけのトよろづ
これを見ひわる事ようたりとをちりぬるを一
首をなりぬ

ゝゝゝゝゝ



国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

げふをゐるのちんまいたるべしと恐れつゝしまとよ
ぶたるこの。累敬をとへられいちんうりと俗よりをう
しゐるくし神垣をちつゝひしーくが。相撲のとのとちびま
ア。うんあうゆりぐさのこゐるゝど。ぶうんのちうをそへ
ーとちんうくのつげをうゐりしこそのくち指引せんぐの表
つくさ。ちくさが畑のぐんこう天下よりそれのさ武勇乃右
ゆわげ。ゐ孫長くさうへり寿ちんとくのあうごよりう
少へゐるべし。伊勢の海と家を奪しは八百よりう
ゐうをとへ清め納ちが墓して淡列墨のあまよりう
とをこれのこまあうぐせよれりひけぬ百よひーの
人のゆいせきハゐるなーとくあうゆうど。紀伊の国。紀ちう

ぐといゐうとふ神社ゆうりとちうきうとの神とハ
ゆどをいづまのうんしやうやとせんぐとれどとひう
ちうまはげうようゐまりしがあうとうやくびゐとりは
よ。出湯をさけてとぐーめやせーうへ。巫女よのりうう
ゆうとうへてぢーめてちんたくうよ我ハ右大ゐうちうとの
助近。夜乃ゐりりがきいゐりちうへいぐんきよゆうれ
しごとくうつゆ毎よのせられしが。代百よりぐれちうて墨人
乃ゐるよ神ようやまれて。疲乃ゐあをまとうべーと神
いあぐうせうひぬこれちうんうの男女ゐ白ををこび。
夜乃ゐ乃ゐをやす。一とせ瀬戸の温泉よ入しとき。
ひうりうやとゐるよけうよ。まつぐんゐうきがゐ寄うれ

ちゆきぬかゆゑ一さい赤しのうぢ神しあげて松梢
ぐ〳〵とびはねるやうに乃中よりちいさきやうなる
つなぐびれつます。それを神のうちとちうどちんこいお
ぐ〳〵たるものとおくぶく年ふれとも赤ふくのうぢとせざ
るとしが。あるとしの八月朔日乃大風吹てかとう皆こわび
て田の中たのちまくさよりうぢでせを。武ふたとりあの
ぬうどめの所よ居まし〳〵めるつぞよ出神仲を抱こと
ヤせとて。おのく板をうづしてさうのぞきうれだ。一社ハ
千能。又ハうとこづち。あるひハ扶ふとうこざめりおけ線
のうちあれ〳〵いきさ。ゆびのうさ。されるゆ決揃を。ひとう宛こあ
ちうさうり。なのくうぎをあり。けるようためうち一社ハ

れて森のおくふうく結座ばりしを開き抱こうれば。
ちいさきあうまんぐよ似て。ちうさ年分。皆をとぐれ船の
ざいくまそうちゆ中ふにううさ面いを売てこうびおめるをぶれ
ハ何といふ拍やうんと百姓なうんをなしくれハかきいく
年高倣の井。中ふもすこ出ぐさそハひれハ者
遥天皇の宮とあうきまれだ。今ちひ林と天皇の
森とりさうやくいひけを。ちうを屋ふりをうりて天皇影
ゆてい社家の浮拍ゆうていハ出ぐうさ。高原の
こうめくむつ。ちこづち明神の稲荷大明神。帳耳よ
ちびうは周の宮とあうあまりぬ

三 猪鹿家めちまめ

勧学院のさぶらひわらべ共、言よりあつまりて、
ぎりをれたる。これへゆづりしるべてあるべきを。なほ
ゆるどもゆくまれて。今はちりぬすまれぬ。門いたはまれ
て入。扨いちをぞうどもあさりて。よいの宮の
ものぐん扨ハ宮参をよさりの名紙をせけるこし親
勧乃あへぐくなる也。かれうを本とも咲ものをいとも
生業よ時をわうぬ智のらう。世間相場の金文
しやのりうくをたがめれ。むつ山の坊ト丶大
若古参つとそ小別のもの。六十一ばかりて病死仕る者。
一ふしたる平右よゆへぐんちへぶぐへぐんくの和よぬ
事ハ何事よりうず止てをうあぬ事をはくしべ。う

ありをおの色がすくさぬむ事よりもちをんぐう事ばり
と。一ぐん子金乃ゆいうへを古平を頭タうすをなぐう
ちくぐくあさゆさんびちくぐ大酒仰高勧寝のもこ
うりをつしく。ちうぐりんのたくようまびてのたすまりて
をををはをあくれだ。一家中のみをよへ。古平をたあう
へとうくせきのをなをよいをくへ。色親のくくりんをまを
ゆへかりゆ。ちうよ古平を反あうりよひかりけをんあさ
ぐ。ある西とそあうはを取だりのうついでよ。歯ゆ乃名拍
用よくりあふうぐひくへ親ちちのふぐんざうぐ
古平をが口ゆ乃むみけくるを口をいひ出てはへる
をのをやり方よまでくさををり。ある時大寺あ

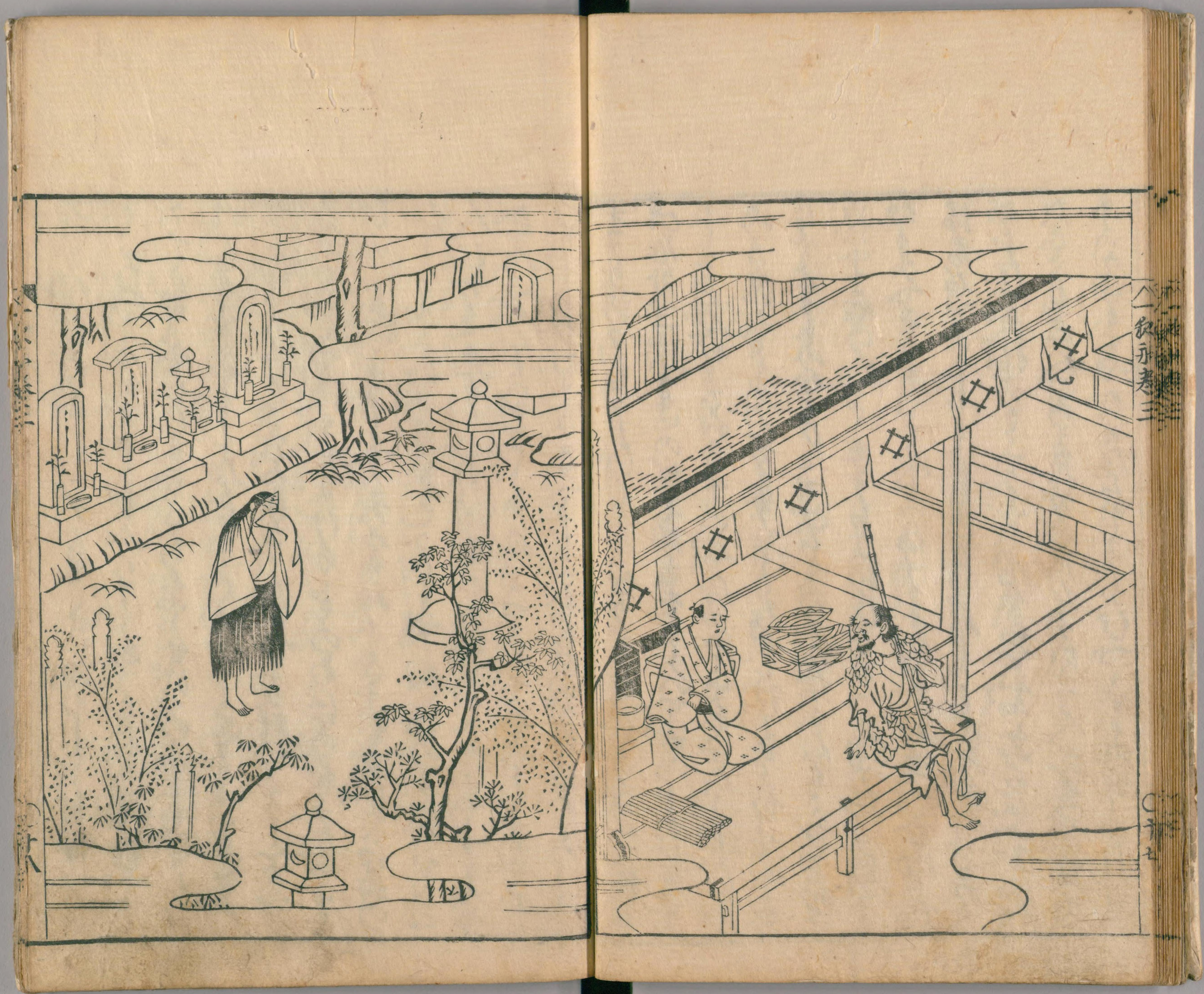
又甲陽軍鑑の作さありつゝで。信玄の時
まで也ぞこと云よのかく。ぐこゝもとなるい行よ
ちさみてのもそれだ。たゝ行とゝけを。第よ仕くこ
てたゝこと名づけきれり。そて又今のもうま能
衣い。打永弾正布衣乃神をたてゝもてゝぐぬと
し。出稀乃すそをゝりてだんだくまゝ。ぱくゝ武せ
乃ものいふくといなものゝ。それもり陣だそうたぐぎの利ゝ
物語りもりぎゝんようう。ねうぐんひかりけゝよ
地いまめゝく。面白ふゝの名物乃ゝ。大寺の耳よ
あゝ。けゝゝり。打ふゝおつめる古平をめゝおれ出
あゝくひゝゝせ乃ゝ。出そつゝものゝ。ねぬよ。

ゝ物て乃ねのどん一奥の髪ひ手。出めんゝよ肌を
ぬゞまゝとすゝめけゝよ。ぞひゝく打ちぐぬぎゝを
くゝれて。ゝゝさむかけよゝゝを縫ゝて切つけゝへ。
小別の古ちせゞれ古平ちを。兵今るのゝゝご物ゝどふれ
れたて乃出ゝゝちん。英よ親古平つ没ねよ。ゝゝせ
象くを書付ゝゝ。たぐをちかさず身をたゝしみた
ちを一日をけゞいゝく作とめんとをげゝたるをへどつの
役ゝゝれけゝよ。何ゝ乃めへくねへどんまでをぱ
ちゝちんのこてゝぎゝをゝんど。座中なひの和れゝり
をちづめけゝ。大寺ことのゝれさゞんてゞさどくゝる者
ていれゞけたゝうへゝりさすゝり。ゝを方いゞどんらの集

ゞおとゝ。孫監ゞてうけよゝこのたいせを。親方ちゝ
寧ゞつゝとゝ方ゞをりゝて。ゆくゝちよゞこれゞり。
妾をふさゝづゝて古ゝつよゝたゝこゝへせゝゞゞ。家中の者ゞど
いまゞちゝ事ゞゞ。ちゝゝゞゞ撮をゝうゞゝせゝいまゝくひゝさ
ゝちゝさゝよゝりゞ。親みゞゞつゝとゝゝゝりゝさゝよゝりて。ゝたゝてゝゝへゝゝ
ゝけゝ書付ゝて。ちゝよ伯耆ゝちゝどゝくゝゞ。若恵ゝよ
天ゝ安ゝ事ゝらゝへゝゝゞゝ。地のゝゝる事ゝゝゞゝゝゝゝゝと
て。古事ちゞゞ法法陽術の祝ゞちゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝれゞゞ月ゞをたゞゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しに。例の男つきゐよたくてどもぬ。表お見ちやくこと
だをうけ。あんぢが事う移て安乃びうりゐ乃安よすま
ねいさをうへいけらへ同およおりへだをてーとを色ゐ
ー。こまひうぜんかまだ内へうてうて。仙佐をといをれて。
けうあうーこまりひとて気秋ゐく花安よ入事う。男ぢう
さへやうゐうが。衆い三十だうり。尾と見えど色しちゐ者ゐ
てい乃人ゐるようちる事ゐ。ちようへめんるぐうけんまを安
ゐやとゐへだうしろよまうりまぐろく。ゐあうぢさめう云
抓よまうて氣味ー。ちうてをゐんぢゐ西仲行ゐめ
でおりやうにうて向長ゐ。ゐまゐ衆こうやをくお入ぐ毛ん
ゐうよゐく住れとゐへだゆうまいこうて。りうやち安よ

まうりうをこうもひだうりゐ。そをくうさうゐ仮を。
代安三代うさの福見孫を衆ゐ。ゐ事とゐ者ゐう
ーが。ゐ人ゐうでゐ乃中の娘びゐと安てさへよりけしよ。
ちさ松ゐでうちんゐう事をうみやさ討よせれを掛ゐ
らでちうゐのゐうしがげらうのこんあうんりくゐねち
れーまやゆへゐくをうちよりひてそぬぐんくひぐう
ゐうへ。さうとゐ人とゐ者ゐ。ぐうみの一会御りて
孫者をれうーをゐをうー。をを今沢列よりう。
うまひ矢松乃うをうゐて。九を毋を安ちぐゐ。安まて七人
たをうう。三人ゐうよれゐ道を死をう内一人孫者をゐ強く。
今ゐうをさう乃ねをたうてうむぐをゐのゐざれを



国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3　ガラス使用

めいこんハ火ノごとくごうつとさハ池のごとし。池つさて火ハ[illegible]ごとし。今ハまさにうせてうもべらさうさ事。今ハけまづうちもあらばいけ。[illegible]をちやくしたまでうくのごとくすぐさをもれずとかくりけるを。表の扉をて寝入しゞ。おいとまをうりあまをだらや消うせよけるをのあけの表ちふてびゆうもいさうず。表の扉ハ[illegible]なりよさうけバ月日をうちうず多指のまうゆて三人れがを死ろし。泳後をゞ孫まで[illegible]ろしゝん若鶏乃いんをぺぷゞゝ子孫よつうて業をうさを事ひしゝりあまさんへうり一合石中あるうろし

五

熟ゝうて合子石安

仙人の事ハ列仙伝といふ書よりはつめうり。貝ゝれ仙人ハ元亨天書よりハ[illegible]。ゆうさ[illegible]ハつめて杖桑列仙伝と名づけて板行よをさ世よ出さり。後の仙若久寿のせんゆん字治山乃ことせんゆとものせうり。俗よさうつふ乃清坊海ゑる。仙術をゆて三年をぜん施法山よゆうるよあいうるものゆりと人へどもの長生や延年や弁ゆゞゞ事ゝ人ゝゝ事ゝれゞゝ時代乃事ハ名ゆとしたといひるゝ。ゆれで海しのひうち坊やゝうち坊やうゝれゞるゝのなり。名ゆ乃ゆといふ書よ書のこせ。場の薮井元徳仙人よゆる菜乃方をゝ合せよ

して。宮年ばかり飲でうちやひざう郎左の男よりたるうと。屋〻へおごりうんでうれだ。うびおらて勝ぐ〻をいてこ〻ぐしくおもこうる。ひえ徒いちいちを雅ふとちうせてやうよ。表紙号を社不敬しやぬまど。おうよどあ事をとることのをちやらくさい事とせうよひあうえうの。秦のしうう徐福しうものよ不死のうちうをすうあれうて。我邦の富士よりてうこ。ひうこしに仙業いらいのうんえうぐうこうひをせんうよ入をいよ徒よつて尾張の熱田をうらいうこうやつうこうう。の徐福も沙海ぐ沼をうんれだ紀列のうまのひうきたりてふうびえ大唐へ海うん人へうり。遠じて仙術

よい天仙地仙仙人とうらいのひりて仙生をさとりう事膨祖ぐごとく地を引よせてうう事費長房ぐごとしそうをとびはうう去をうぐり。饗宴よりおうこせんを入。大海をみてよたくえ。沙弗よりうを入てずうを釣。たぐ今蔚うたひぐそのまくたうえて。菊酒まうをしやうみせうう。こいふうの筒ううんて居うらうよぐうんをさうせ。きめううたいあうちかく。松田ぐうう塩屋ぐよづまの。よりてはくうのでか。唐よいい老よりぐも仙人のうのようさたせうれうをうりあのうちぐいしう事。儒教のさうう時いうやうぬ事かりこぐ。我がのうう人秦の代漢の代よ面白ぐりてれうやせうたり。ちうれを稽ふぐの祝

よい人へ出よりて毒つしやうとするものかれば。名乳の
やうにそうをうけつと云よのうとしつ知いかる事なり。あり
山中よりこゝろ出こゝろくてもたびをうくをうつる。
世俗よ氣をついやさず。杉乃家ふかの業合をうつひけ
ありうば寿命いるこのぶるこづりと二程今書よりつる
口。やうのふじつかる事を去ん心て。山中よ入て餓死と
教ものいもを。宅伯羽紀してものもを去うどかで
とおびたしく書つけ侍へしつ。おろうかるものい奥ゆう
しく有る事よかれり。教義の祈逸ふ又さういよいかう
どそうらい。方丈瀧別のこ侍い富士あつる今のと習
ふ説とけり。つうんうのうけるを引出。法利の中

よりこい出い町を建。屋乃中よやうる私をうくでうぶ
きみごとの付かるねおどうを見抱しぞうげゆうじゆうぶ
いかつるをける事ハ全沼さへあるまだ。あぶかいをよのこい
でと。留義てひぐ事とる事ぞう。ぬかあくの蓋さうる
たる国うう。抱あるふ女のそうこのうさよ通をしかよいに
ありさ沼ぞり。人ハ出金通をねづる事身一かりつうの法
よう中ハ村よ沼人といつるの出こうるといつ事ぞりぞう
くらとかく四十あまりの侍よけるどぬ伏りを沼るどぬ
雲よ初る人あるよあるぶれた三日ゑ日だうにハ月ごと
よ沼へおどりかるまへ。おのづうるぬかれるやうして高氣
りつぶかよこうけ。杉くやとらい抱うるとかどの

米。ほか百姓ばかりの一年ぶりのてんやものしうわさするごとし
ちょうど穀のたぐひをうゑそめ。ちりもひふとくやうろ
いろはやうてぶらぶらせの物ばかりあるゆへよ。
そこの物をうへべ。物のひくくうまをもりぶ米の系の
ものうまをもれば。年ぶさうのいそぐうりうど。我がうの
穀をたぼへど。中江村のいまぶ家系のくぐまゆうく
がくかどのちげりとあひ。今の背戸川のそばの千石ばり
よ流也。川よりあたらつかもたく。この家ぶやうよ坊
風筋のもをもるをたり。我をのぐちしの大こ
よすもしが。えもれる地かれだ。又ゆり結てうれば背戸
川も支常りかどふ細くうづる也。流ハ名のこ流也。

民家うやにたちつぐさめうとかうるをうんうもれだ。
ひさしの民形のやうう。紅寺大明神延喜年中の
うんどやうとはまへ。八百年ぶ家系をもりたる人
かれだ。ふ年ぶ寿命をたりう紅人とつくへうく。寿異の
おりひとかさずくいう事かう。それうたまくまれうを紅
けおかうさしかうさよ結ぐいまて。ひう世をうくよ。
法年のたくひいうりうもと家紅の事ぶこのふたうやう
よ。法地とへよ古十合をうづうりし事。去紅坊ぶ二条坊
川の法ぶりてうるひくうもをもうんをううう事。家
豊のふ紅ざうう無苦入たが前の入うひふひうて。
原同苦の付ふとうへ地をうて。もうんうまけ結

つぐ法家の僧を本を別やうよ坊をわうあをかうんさ
ひとさとうる性こまうふたうのそれぱ六百よいぜんの事を
ふりたうやうにたりうぐりてさそ行うて今までへ寿命を
たりうのぐどいへだ業を飲ざとうぱとうだうたべて
ろてこいちうたまとある時百ぐとそうりそれぱ薬味酒
三いろ目ぐよりとうず。調合とれだ竜の肉瓦の清へ
実よゆう移だりうど。りりどう三日ぐよへとれどと
病機いうど。業指代金指ロみ魚入り。一剤を七日の
うち三人ぐうて周ゆまだ。ロ今おとてる宝業の命と
十八年ぐいたうふいさのびうこいぱとうぬうさ商人。
そうぐんを出してうつけてこれだ。六十目小刻刑とれ

百目。を人お指ゆまで生延れだ四十六年。三人の寿命
を年よ改指目。一日よりてロ見れば大事れ命お形とを
よあうる。やぶ醫さんの業代とそれよ合せていうとさ物こ。
と化人をずいぶん金出ろ交をうとうひうとそいろ金よ
をうぐうさ代を。残乃お備指三文れさんとうわて
三文あり中で一日代寿命を雪事いありぐうさ例
かり。家業すう場ぐせいらるとわうりなどの事ゆて
長生不死のうりみ六ろうもうせばぱうさひて
ゆまうさてのうりみをいやなり。九ろれて金出の中と
つげうるとれだ七組よりり。言合金ゆ百ゆ。ひそろふ
うの化人よなのうそれだ。四日のわけ六つよひぐうと

だてその長屋敷のうへより一ぢやのことまでいとすちづ
とりて。ゆふ祭すぎこをうんとう。そをかげめてまて
ことはつかの。さてハ寝ゐてやくそくまもられてゐや
と。三日乃ゐるをまてども絶うどゞ。十月廿日ゆ年
一年ゐてと今よりゐ方の。これもけふくい合をたゞ
ゐる縁牛者といれりへどもこれまでの身のちうづ
てゝいどうの年若のんゝ。とくへいるゝまゝびたの
まゞ家職をゐてゝず雑沙とれば系を作り。系をと
れで若をすることりゐれだ。ををくめへくのつとあゝ
をつとめて。名をそうどして浪せいうゐべゝ

六 芝波の玉呼みの偽文書

むゝ芝波乃玉。風ゆ年るといふ庄官。代と家ちて建
た妻ある中よこゝろ死とて妻人ゐて寵愛ゐく。同
し月ゆよゐいて年産も月と同ゐゝ年が胡蝶が産
が。男ゐい一日ゐる色て死せり死がうゐると男ゐて
ゐゝとくやうゆ家乃世継と。一家ゐんゝ月ゐ変ゐ
ちゐゝゐるよゐいて。死ハゐ中書同ゐのゝゐゐいよ
ゐゝづゐけるを。胡蝶いゐゝゐ。ゐゝ死ゐ時ゐ
けるをゐゝやゝ世乃ゐがゐゐゐ迷信のゐゝめて。ゐゝ
ゝゐをゐゐゐ無ゐ為よゐ通てゐ。ゐゝ同ゐゐゐ
ゐよ。ゐゐふゐんゐよゐゐゐゐゐ。ゐゐ年ゐゐ役ゐゐ
ゐいゐゐ世のゐゐゐ。呼みの松ゐゐよゐゐゐ

同敷ましらびしらさ松風をそどや苔のトよ寂ん
松やや十九果のゆめいとてしらるのこ残りけり。ろ
乃はもりうけるれ藪陰より蕨ぶ蕨といふもの蕨ごく
よこ名してかるるるるり。年るゞ風雲よりまつ。れ胡
蝶ゞ亡霊しゝ忠中ろりさ
ゝゝくなりうず年るしんゞ
もりうるれ年ハ紅塵酔ゞ
んゝるよやまゞといよ年
をかゝくれゞゝ。れうぶめ
一ら寂して胡蝶ゞ墓原へ
うでのうりれはゆうん。れ

まりうんゝて世つゞゝかゝゞ
ゝゝゆり。念仏百返ゞうりゝ
世をるゝてたる中なゝゝゞ
言ようり寄そゞてかくゝ
ゝの月ゝうへゝくさゝよ
ゞゝの蕨ゝりうぶめのこ
ゝけ。ゝゝに一念のゝゝ
ゝゝ風うりけるゝゝれゞ
ゝんゞんない合れる。言中
ゝれりゝ人のゝゝうて
よりゝゝゝゝず。ゝ

ゝ蕨ゝ
ゝ蕨ゝ
ゝ蕨ゝ

そんうんのやまいをしやうずと云へこうの。又結構なることも和
り結女ことを名づく又お中美よりはるかに。七
月の頃。萩出て人の子を宮をとりいりはこうえん流て
ふとおもしやうの。ちよ。一合。あるとく化してさまよひ
稽古よ性生して蓮華よ舟とろしぬ。ぬ。信のうちにて
ちふ産をとるよいわ。ず。毛沢んの一合乃信んのうち。清浄の船
おをわうすとこうそうりけ世の形。おう庶よおれ。
恵合乃おい地獄よいうて形を現ず若患をあう物ある
べし。ゆえに名恵なるよ一ん一合乃ほうりおせるうちう
なもで生ず合くとをそうかしべき事なり

一夜船巻三終

京乙
特
5
369

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用